

## いっ気に 輪地焼き 終了

今年は土日の天候が不安定で、10月5日の活動が延期になり、次の13日（日）に輪地焼きを実施しました。



前々日までの雨で、刈り草は少し湿っていましたが、連絡網とメールを使っでの参加要請で当日は26名の会員が参加しました

今年の輪地焼きは用具が充実したこともあって、6又は7人で班編成し、4方向から焼いていきました。

各班には、バーナー2、シューター2、レーキ4が配分され、リーダーの指揮で手際よく作業が進み、午後3時過ぎに終了しました。

### 白煙をあげる輪地焼き作業

輪地焼きはこれまで2～3日で行っていましたが、レーキやバーナー、シューターなど用具が充実したこと、会員の手際がよくなったことで、気象条件さえよければ1日で終わることがわかりました。

参加された会員の皆さんお疲れさまでした。



### 助成金で用具が充実



レーキ（9本）



バーナー（3本）

### 新調したバーナーで点火

セブニーイレブン記念財団からの助成金で刈り草を集めるレーキ9本と枯れ草を焼くバーナー（プロパンボンベ用）3本を新調しました。

これによって作業効率があがり、これまでの半分以下の時間で輪地を焼き終えることができました。

野焼き本番でも、これまでの時間を大幅に短縮できるのではないかと、思っています。

保全の会の作業や活動も周囲からの支援や助成によって年々進歩し、発展してきました。5m四方の実験区に火入れをしていた頃と比べると大きな変化です。

この湿原保全活動が、子孫に健全な地球環境を引き継ぐ生物多様性の推進につながっているのです。